

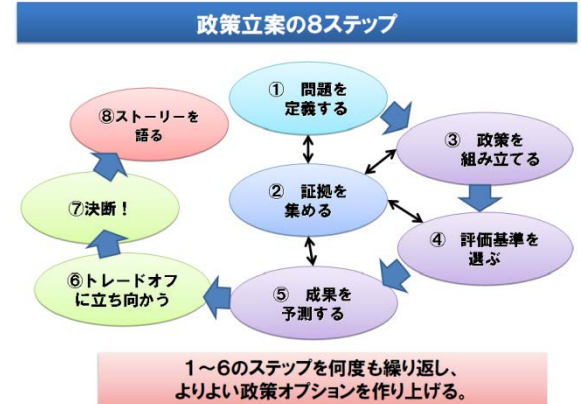
ITも活用して、オープンかつ科学的に
政策をデザインしよう。

政府が持つ情報をどんどんオープンにはしてはどうか。それを使って、自分たちで政策を決定して、政策を提言していく。政府が行き詰ったときに、国民の側からどういうアイデアが出てくるか。そのための素材をどんどん提供してもいいのではないか。(⑤森田)

急ブレーキを踏んだポイントがデータからわかり、このデータを道路行政に活かせば、行政が持つ事故データなどと重ね合わせ、予防対策につながる。また、情報を広く一般に公開し、地域の人たちがここは見通しが悪いですよとか、書き込めるサイトsafetymap.jpも作った(④今井G)

ニューヨーク市で教育分野の行政に携わっていたときに徹底的にデータを活用した評価システムの見直しを行った。こうしたデータの活用を行うことで、限られた行政資源を最大の効果が上がるように投じることができる。(⑧工藤G)

データの活用はよいことだと思うが、「頭のいい人」が論理・データをこねくり回して変な結論を導いてしまうというのをどう排除していくか。論理に加えて「勘」も非常に重要で、そのバランスを取っていく必要がある。(⑨横田)



(出典:第9回懇談会 白石さん・鍋島さん・南津さん資料)

オバマ政権におけるオープン・ガバメントの3つの柱

	Transparency (透明性)	Participation (国民参加)	Collaboration (官民連携)
サービス事例	・ Data.gov	・ Open For Questions ・ Regulation.gov	・ Arsite
サービス概要	・ 連邦政府や省庁が実施した調査のローデータや二次データ等を検索・ダウンロード可能	・ 広く国民から意見を募集 ・ 規制等の検索・コメントが可能	・ 国務省関係科学者のためのオンラインシステム
特徴	・ データフォーマットが多種 ・ ローデータへのアクセスも可能	・ 規制・関連資料が一覧 ・ 国民からアジェンダ設定が可能 ・ 政策担当者(大統領等)からのコメント ・ VOTE機能	・ 国務省関係者に加え、許可されたものが参加 ・ 数々のプロジェクトやトピックについて議論
日本での類似サービス	・ e-stat (ただしローデータはない)	・ 規制改革要望 ・ パブリックコメント	・ Creative commons

(出典)「海外におけるオープン・ガバメントの取り組み」(2009年12月経済産業省)

(出典:第5回懇談会 事務局資料)